

教育支援(音楽教育)

プロジェクトの背景

カンボジアでは音楽は独立した科目としてではなく、「社会科」の一部として小学校で指導されている。その内容は歌唱や伝統楽器の名称のみであり、児童生徒の情操を育成することができるような幅広い内容とは言えない。また、楽曲が楽譜になっていないため正確に伝承がなされず、他国の曲に親しむなど視野を広げることもできない。



音楽フォローアップトレーニング

2012年度はコンボンチュナン州、プレイベン州の対象校38校59名に対して、各2回実施しました。実施前には両州教育局にてミーティングを実施するなど、関係者との協力体制を築くことができました。開催日程は以下の通り。

- コンボンチュナン州:8月27日～31日/11月19日～21日
- プレイベン州:9月3日～7日/12月12日～14日

昨年度は、指導方法に重点を置きましたが、本年度は音楽コンテスト課題曲をメインとした指導内容とし、参加者が各校で課題曲を指導できるようにしました。

参加教員の音楽知識の土台は構築されていますが、両地域でのトレーニングは5年が経過しているため、今後の指導方針を明確にしながらか内容を決めていく必要があります。

フォローアップトレーニングの各内容についてどの程度理解できましたか？

(回答者数59名:プレイベン州37名、コンボンチュナン州22名)

	合唱	演奏	合奏・劇	太鼓
よく理解できた	7名	5名	8名	7名
かなりよく理解できた	28名	25名	26名	29名
かなり理解できた	19名	24名	21名	21名
あまり理解できなかった	5名	5名	4名	2名

音楽授業実施状況の調査

2012年6月、ブンペン市、カンダール州、コンボンスプー州、プレアシアヌーク州、コンボンチュナム州、タケオ州の6つの対象地域の中の94校のうち79校と連絡を取りました。その結果、実施形態、地域差はあるものの、50校の学校が事業終了後も継続して音楽授業・活動を実施していることが分かりました。また、50校の中には音楽活動を学校内の行事に取り入れる学校も出てきています。下の写真は調査の際、楽器の要望があったコンボンスプー州アキャモヘイセイ小学校へ寄贈したところ。



学校行事に関する情報収集

2012年6月、学校行事に関してミーティングを実施しました。モデル校は、コンボンチュナン州からはワットクロン小学校、プレイベン州からはカウクソンデーク小学校を選出。いずれの学校も、音楽コンテストで毎年優秀な成績を収めており、学校内でも協力し合いながら音楽教育が実施されています。一例として、当会から寄贈された楽器を活用して10月の始業式に音楽隊が演奏する機会を設けたり、学校全体に音楽教育を普及しようと、学校独自にお金を集め、音楽教室を建てようという動きがあることが分かりました。



楽器配布

当会の支援対象校以外にも、王立芸術大学など要望のあった機関に対して、鍵盤ハーモニカ592台、ソプラノリコーダー331本、ハーモニカ105本等を寄贈しました。

特に鍵盤ハーモニカの要望が多く、授業で中心的に使用されていることが分かりました。しかし、学校に保管し生徒に貸し出している為、唄口の消耗が激しく、唄口のみも要望も多くなりました。予算配分や支援の方向性にも課題が出ています。



◎第9回音楽コンテスト優勝校

コンボンチュナン州小学校部門	ワットクロン小学校
コンボンチュナン州中高等学校部門	チアシムコンボントライ高校
プレイベン州小学校部門	ストゥンスロウト小学校
プレイベン州中高等学校部門	ピームロー高校

マーチングバンドプログラム

2012年度は、ワットブンン高校44回、クラップ1小学校51回、クバルチュロイサクラ小学校51回の練習を行いました。8月には、専門家の尾田一夫氏によるトレーニングを受け、パレード出演にも備えることができました。

また、2013年1月より、青年海外協力隊員の後任として伊藤萌氏が赴任し指導を開始しました。

クラップ1小学校は、毎年学校内で行事が行われ、生徒たちにとっても演奏披露の良い機会となっています。学校長及び、学校教員が音楽教育について理解している事の表れであり、ひとつのモデル校となっています。



国際青少年の日にパレード実施

2012年8月12日、当会支援のマーチングバンド3校156名が参加して、恒例のパレードを実施しました。

昨年の反省を生かし、本年は事前に新聞、テレビ局等に情報を提供した所、複数のメディアで当日の様子が紹介され、観客以外にも広く音楽教育への興味・理解を伝えることができました。

年1回のパレードは生徒たちにとって日々の練習の成果を発揮する貴重な機会になっています。



熊本県海外技術研修員制度

2012年度は、当会が推薦したコンボンスプー州アキャモヘイセイ小学校のホーム・マリダ先生が採用され、8月より半年間来日。熊本県芦北町内の学校で研修を行いました。この経験がどのように活かされていくか確認していきます。

マリダ先生は「日本で学ぶことが出来たことは私にとって誇りです。国に帰って学校や地域で、芦北で学んだことを伝えることを約束します。」と語っています。写真左は芦北町の小学校で研修中のマリダ先生。



第9回音楽コンテスト

2013年2～3月、コンボンチュナン州17校、プレイベン州21校、合計1,855名が音楽コンテストに参加しました。

各校の演奏は、昨年度と比較すると上達しており、教員の指導力が向上していることが伺えました。今年度の成績は表の通り。参加校への交通費や食費補助等、物価の上昇と共に年々あがってきており、毎年の予算確保も課題となります。

参加者の感想

●私は音楽コンテストに参加できて本当に嬉しいです。なぜなら生徒が楽しんで勉強するようになり多くの知識を得られるからです。でもまだ音楽授業を実施するには、部屋や時間の問題があります。(プレイベン州 Peamro中学校教員)

●音楽を学ぶことは生徒に良い影響があります。勉強も楽しんでやるようになるし、学校にもきちんと来るようになりました。(プレイベン州 Ekkareach小学校教員)